令和5年度学校評価

今尾小学校

今年度も、学習指導と生徒指導に感染症拡大防止対策を加え3つの項目、9つの内容について評価をし、教育活動を振り返りました。結果は次のようになりました。

※職員評価は3段階
「実態に応じた指導ができた」3点、「指導はしたが、改善の余地がある」2点、「指導をすることができなかった」1点
※児童評価、保護者評価は4段階
「よくできている(そう思う)」4点、「だいたいできている(どちらかと言えばそう思う)」3点、「あまりできていない(どちらかと言えばそう思わない)」2点、「ほとんどできていない(そう思わない)」1点
平均値を数字で表しました。

○:成果	△:課題	☞:改善策

【学習指導】

①分かる授業をめざした授業改善を進める

		評価の平均
教職員	「本時のねらい」「課題」「まとめ」に一貫性をもった指導をし、単位時間の終末でねらいを達成できるような授業を展開した。	2.5
児童	めあてをもって授業に参加し、授業の内容がよく分かった。	3.4

＜成果と課題、改善策＞
○本時取り組むべき「課題」を明確にしたり、授業の終末に習熟の時間を確保したりしたことで、基礎的な学力の定着につなげることができています。
○ICT機器を活用した授業を行うことで視覚的な情報が増えたり、一人一人が考えをもち交流する機会が増えたりして、「学習内容がよくわかる」と感じている児童が増えています。
△学習内容の定着が十分ではない児童がいます。
☞児童の実態を正しく捉え、つまずきのポイントを事前に明確にすることで、適切な手立てや発問の工夫を行っていきます。
☞児童が主体的に学び、自力で課題を解決することができるよう、学習活動を工夫していきます。
☞ICTの有効活用をさらに進めていきます。

②「聞く・話す」を中心とした基本的学習習慣の徹底
（特に、伝え合う力が身につくように、仲間の発言と比較しながら聞き、分かりやすく発表できる児童をめざす）

		評価の平均
教職員	話し手を大切にした聞き方や、最後までよい姿勢で話を聞くように具体的な姿を示しながら指導し、よい姿を価値付けながら広めようとした。	2.8
	自分の考えを積極的に仲間に伝えるように具体的な姿を示しながら指導し、よい姿を価値付けながら広めようとした。	2.6
児童	先生や仲間の話を聞くとき、よい姿勢で(話し手に、目・へそ・つま先を向け)最後まで聞いている。	3.5
	進んで自分の考えを発表している。	3.1

＜成果と課題、改善策＞
○「話すこと」「聞くこと」に関するめあてをターム目標として設定し、タームの初めに目指す姿を自己決定したり、個票を使って自己の成長を確かめるようにしたりしたことで、姿として現れつつあります。
○互いの意見を交流しながら考えを練り合う授業のよさが浸透し、児童の良好な仲間関係が作用したことで、自分の考えを進んで発表できる児童が増えています。
△発言内容に対する自信のなさが、進んで発言できない姿につながっている児童がいます。
☞授業だけでなく朝の会や帰りの会等、いろいろな場面で聞くことの大切さや内容を聞き取る視点を指導し、人の話に耳を傾ける姿勢につなげていきます。
☞話す活動に必然性をもたせることで、話したい、伝えたいと思って自分の考えを話すことを大切にしていきます。

③基礎学力の定着（特に、漢字・計算の習得を高める。学習習慣を身に付ける）

		評価の平均
教職員	家庭学習の充実や定着を図るために、励ましたり、見届けたりして個に合わせた指導を行った。	2.9
児童	家で、家庭学習の目標時間（低：30分間、中：45分間、高：60分間）は集中して学習している。	3.3
保護者	家庭（塾も含む）で、各学年の基本家庭学習時間（低：30分間、中：45分間、高：60分間）は、学習することができている。	3.1

＜成果と課題、改善策＞
〇普段から担任が声を掛けたり、「そったくチャレンジ週間」に取り組み、定期的に家庭学習の様子を親子で確認したりしたことで、学年に応じた家庭学習の目標時間を達成する姿が定着してきました。
△家庭学習の取組に対して個人差があります。
☞自主学習の内容を具体的に紹介したり、個に応じた宿題の量や内容を保護者と相談したりして、確かな学力を身に付けるために家庭学習を習慣付ける指導を継続していきます。
☞クロームブックを使ってAIドリルやGIFUウェブラーニング、タブレットドリル等も活用しながら、学習内容の定着を図っていきます。

④図書館教育の充実（進んで読書ができる児童を目指して）

		評価の平均
教職員	積極的に読書に取り組むように、読書指導を行った。	2.8
児童	進んで図書館へ通い、本を借りたり読んだりした。	3.8
保護者	家庭で積極的に読書をしている。	2.4

＜成果と課題、改善策＞
〇図書委員会が積極的に働きかけることで、各学年の推薦図書10冊を全校児童が読み終えることができました。
△貸し出し冊数で見ると、多い児童と少ない児童でかなり差がある。日常的な読書週間を継続することが課題です。
☞School-e-Libraryも活用しながら、読書啓発のための活動を継続して行っていきます。

【生徒指導】

⑤自分たちで生活を見つめ、自分たちで改善していこうとする姿を培う

		評価の平均
教職員	係や当番活動、委員会活動の値打ちを話し、仕事の責任を果たすように指導し、見届けた。	2.9
児童	係や当番の仕事、委員会活動などを忘れずにやり、仲間のために活動している。	3.6

＜成果と課題、改善策＞
〇学年の段階に応じた係や委員会活動を通して、仲間や集団のために自分にできることをしようとする思いや行動が育ってきています。
〇高学年が企画した行事やキャンペーン活動に全校児童が協力することを通して、あいさつや健康などを向上させることができました。
☞自分たちで考え、判断し、活動する場面を今後も位置付け、できたときは価値付けてよさを広めながら、自治力を育成していきます。

⑥基本的生活習慣の定着（特に、挨拶が進んでできる児童をめざす）

		評価の平均
教職員	家族や仲間、先生や地域の人に挨拶をすることの大切さを指導したり、自ら率先して挨拶をしたりした。	2.9
児童	家族や仲間、先生や地域の人に進んで挨拶をしている。	3.5
保護者	家庭や地域の方に進んで挨拶ができている。	3.0

＜成果と課題、改善策＞
○運営委員会が、朝、登校してきた児童に挨拶をする活動に取り組んでおり、さわやかな挨拶で1日を始めることができています。
○誰にでも挨拶をすることに取り組んだ結果、学年が違っても仲良く関わることができるようになってきました。
△学校の外に出ると、地域の方や通学の見守りの方への挨拶ができなくなってしまう姿もあります。
☞基本的な生活習慣の有用性について、機会を捉えて指導を継続していきます。また、ご家庭や地域の方も、挨拶の気持ちよさや大切さを教えてくださるようにお願いをしていきます。

⑦安全な生活（特に、交通安全に気をつけて登下校することができる児童をめざす）

		評価の平均
教職員	交通ルールを守って登下校するように、学級の児童や登校班の児童等に指導し、実践できるように見届けた。	2.9
児童	交通ルールを守り、交通安全に気を付けて登下校している。	3.6
保護者	交通ルールを守り、交通安全に気を付けて登下校している。	3.3

＜成果と課題、改善策＞
○今年度も、通学班でのトラブルが少なかったです。トラブルがあった場合は、すぐに地区担当を中心に担任、生徒指導などで対応し、指導を実施してきました。
☞命に係わる重大なこととして捉え、登下校のトラブルについては即指導することを続けていきます。
☞学校評議員会やPTA本部役員会等でも話題にするとともに、地区社協の方の協力も得て、地域全体で児童の安全を見守っていただくように依頼を継続していきます。

⑧いじめのない、誰もが楽しいと言える学校をめざす

		評価の平均
教職員	児童観察や教育相談アンケートを通して人間関係の把握や個への寄り添いに努め、児童と信頼関係を築くことができた。	2.9
児童	友達を「～さん」と呼んだりあったか言葉を遣ったりしている。	3.5
	嫌なことをされたり言われたりしたとき、先生や家の人に話すことができる。	3.4
保護者	学校で嫌なことがあったり、見かけたりしたら、家庭で話をしている。	3.1

＜成果と課題、改善策＞
○毎月、教育相談アンケートを行ったり、相談ポストを設置したりして、児童理解に努めました。気になる児童には、その都度声をかけたり、保護者に連絡したりするなど、早期対応に努めました。
○毎日の帰りの会や行事を通して、児童同士でよさ見つけを行ったり、授業参観で保護者が来校した際に子どものよい姿についてメッセージを書いていただいたりしながら、自己有用感の育成に努めてきました。今後も、自分のよさに気付くことができる場面を設定したり、活動を工夫したりしながら自己有用感を高めていきます。
△他人に迷惑をかけること、人の気持ちを大事にしない言動に対しては指導しています。しかしながら、児童同士の思いやりに欠けた言動やトラブルが完全になくなったとは言えません。
☞よさ見つけを継続、充実させながら一人一人の頑張りを価値付けて自己有用感を高めたり、保護者に様子を伝えたりしながら、前向きな学校生活につなげていきます。
☞すべての児童が困ったことがあった時に、先生や保護者に話すことができると言い切れていない実態があります。児童との関係づくりをさらに深め、相談できる関係を築いていきます。